

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	97-1 都市間交流推進事業(大津市との交流)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	54 地域資源を活かして、他地域と交流する	目	07	文化振興費
		細目	130	都市間交流推進事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	都市間交流推進事業
担当部課	コード	11300	担当者 氏名	西村 澄子
	名称	企画総務部企画課	連絡先	22 - 9621 (内線) 2116

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内の民謡愛好団体、大津市民連 市民夏のにぎわいフェスタ来場者	※対象件数
成果(どうする)	芭蕉ゆかりの地との交流を広げることができる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 6 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業 内容	民謡若葉会と比叡音頭愛好会のメンバーの参加により、伊賀市民連を結成し、びわ湖大津夏祭り江州音頭総おどりに参加。 にぎわいフェスタで盆踊り大会を開催し、大津市民連を招待してイベントを盛り上げるとともに交流を図った。	
社会情勢 の変化等	盆踊り大会は平成20年度からは市民打ち上げ花火大会とともに開催している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
市民打ち上げ花火大会実行委員会	目標	5	5			
	実績	5	6	5	5	
	盆踊り大会出場者説明会	目標	1	1		
	実績	1	1	1	1	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
参加人数(大津市から伊賀市)	参加人数を増やすことにより、交流が広がる	参加人数を増やすことにより、交流が広がる	人	目標	35	35	35
				実績	26	24	35
参加人数(伊賀市から大津市)	参加人数を増やすことにより、交流が広がる	参加人数を増やすことにより、交流が広がる	人	目標	35	35	35
				実績	36	36	35

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		755	778	865	865
Aの 財源 内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	755	778	865	865
	事業投入人件費(B)	0.4人	2,880	0.4人	2,880
	フルコスト(A)+(B)	3,635	3,658	3,745	3,745

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
有効性	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
効率性	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
改善策	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
昨年度 の取組状況	【状況】	計画のとおり進んでいない
	【詳細】	具体的な協議に至っていない。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之	
事業の方向性	【方向性】	終期設定
	【理由】	今後、2年間を目標に現在の交流内容を見直す。
現時点における課題、その他	現在の交流内容では一定の限られた団体での交流になっているため、内容を見直し継続するか、廃止するかを考える必要がある。	
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成25年度末までに、廃止か継続か決定する。	